

北海道 SDG s 推進ビジョン 懇談会 への意見書

本日の最後の懇談会は他の要件と重なったため参加できませんでしたが、最終原案に対し意見書として提出いたします。

先ずは、今年このような機会をいただきありがとうございました。

個人としましても、企業の経営者としましても、多くの学びや考えの深掘りができる機会となりました事を感謝申し上げます。

11月末に提示頂いた最終案を、完璧ではありませんが出来るだけ細部にわたり確認させて頂きました。

また、私が前回の懇談会に提出した意見についての反映の観点から読ませていただきました。

以下、企業セクターとしての総評を含む意見として捉えていただければ幸いです。

そもそも持続出来ない世界、取り残される世界にしてしまったのは、全ての人間の責任であると思うところです。

誰一人取り残さない社会に向け 取り組まなければならないのは、意識が高い人だけの取り組みでは到底課題解決は困難に等しいし、人間として全ての人に役割があると考えます。

北海道、日本の課題、問題の抽出は 誰一人取り残さない 為には重要な作業であったと思いますが、結果抽出された課題問題は全体を網羅されていないことは明らかです。私としては特に、あらゆる理由で働きづらい環境に置かれてしまっている方たちが挙げられていないことは取り残していると思えてしまいます。

一つの課題にはいくつものゴールとの関連性があり、一つの取り組みを全てのゴールに照らし合わせて、触れている課題が無いか確認し、取り組み方の見直し、他の課題への取り組みを行う行動でなければトレードオフになり得ります。

であるから、全てのゴールから見た課題、問題を取り組みを広げる時のルールとして認識する必要があると思いますが、この様な考え方の中から 前回 各項目への 追加案を出したのですが、ほとんど反映されておりませんでした。

説明を受けた中で、複雑になるという考え方も分からないわけでは無いですが、理解も取組も多面的に捉えなければならないのと、SDGsの行動には変革で臨まなければ！ と言う視点で考えると、一つの課題をすべてのゴールや課題との関連性を明確にする必要があったと思います。

企業対企業の取引は、顧客と提供者の間とは異なります。

企業対企業の取引が、フェアでなければならないのですが、未だお金を出す方、仕事を出す方が優位性を持つ関係では、仕事を受ける側は課題に取り組むこと以上に、課題を自分ごとと意識できない環境下にいるのでは無いかと考えます。

中小企業が多く下請け事業が多い北海道で、この企業対企業の在り方がビジョンの原案の何処にも触れられていない事は残念な思いです。

この企業対企業の関係、優位的地位の乱用については現在でも経済産業省が問題視しています。

次に、企業には具体的な課題を上げることが推進を図る上で重要だと思っています。

社会の課題を自分事としていくためにも、具体的な課題、問題を提示し、気づきを得る必要があると感じています。

道庁が例えば 企業や企業団体から 今後の取り組みのための相談を受けた場合、具体的に課題や例を伝えることが重要であると思いますが、そこを道庁だけでなく外部との連携で明確に伝える事が重要であると考えます。

今回の案で人権意識について明示されましたが、人権に関する課題は幅広く、働く環境下での人権ではどうする事が必要なのか？ 掘り下げて考え、示す必要があったのではと考えます。

以上が最終案に対する意見とさせていただきますが、今回の最終案が、推進の評価を測りながら毎年進化し続け、道民全てがステークホルダーとして行動が広がることを願いつつ、私自身も心構えした役割を今後も一層続けていく所存ですので今後ともよろしく願いいたします。

2018年12月18日

北海道中小企業家同友会 清水誓幸